

2004年5月21日

2004年

日本都市計画学会

学会賞・功績賞・国際交流賞受賞者

ならびに受賞理由書

日本都市計画学会

日本都市計画学会

2004年 学会賞・功績賞・国際交流賞受賞者

ならびに受賞理由書 目次

1.	学 会 賞	・・・	p1～10
①	受賞者一覧	・・・	p1
②	選考経過および各賞の対象内容	・・・	p2
③	受賞理由	・・・	p3～10
	1. 石川賞	・・・	p3～4
	2. 論文賞	・・・	p5～6
	3. 論文奨励賞	・・・	p7～10
2.	功 績 賞 ・ 国 際 交 流 賞	・・・	p11～16
①	受賞者一覧	・・・	p11
②	選考経過および各賞の対象内容	・・・	p12
③	受賞理由	・・・	p13～16
	1. 功績賞	・・・	p13～15
	2. 国際交流賞	・・・	p16
3.	受 賞 式 案 内	・・・	p17

日本都市計画学会賞受賞者

(五十音順・敬称略)

石川賞

沖縄都市モノレールの整備と総合的戦略的な都市整備計画

沖縄県 知事 稲嶺 惠一
那覇市 市長 翁長 雄志
沖縄県都市モノレール建設促進協議会 会長 米村 幸政

都市計画と住宅政策の結合を目指した一連の実践と著作活動

株式会社葦原計画事務所 所長 葦原 敬

論文賞

新長田駅北地区（東部）震災復興土地区画整理事業における住民主導のまちづくりシステムについての研究

株式会社久保都市計画事務所 代表取締役 久保 光弘

都市構造の幾何的分析に関する一連の研究と著作

京都工芸繊維大学 副学長 古山 正雄

論文奨励賞

ドイツにおける大規模小売店舗開発の立地コントロールに関する研究

豊橋技術科学大学エコロジー工学系 COE 研究員 姥浦 道生

地区交通計画支援ツールとしての交通シュミレーションモデルの開発と適用に関する研究

埼玉大学工学部建設工学科 助手 坂本 邦宏

東京都心部における景観概念の変遷と景観施策の展開に関する研究

—東京美観地区を中心として—

関東学院大学工学部社会環境システム学科 助教授 鈴木 伸治

商業開発のコントロールを通じた自動車利用抑制に関する研究

—買物交通行動分析をベースとして—

東京都立大学大学院工学研究科土木工学専攻 助手 高見 淳史

2004年 日本都市計画学会賞 選考経過

2004年（2003年度対象）学会賞は、会員からの推薦並びに研究論文集、学会誌一般研究論文および学位論文から学術委員会が推薦した石川賞候補6件、論文賞候補6件、論文奨励賞候補15件、計画設計賞候補2件、計29件が審査の対象となった。

その中から学会賞委員会（全20名）はその業績について複数の担当審査委員が各々独立に査読および調査を実施し、各委員から提出された書面での評価にもとづき、委員会で慎重に検討の結果、受賞候補を選定した。

特に評価の分かれた案件については委員会席上でその結果を照合、討論、協議し、委員会の最終審査結果とした。さらに委員会の審査結果を理事会に諮って、石川賞2件、論文賞2件、論文奨励賞4件の件の受賞が決定した。

なお、石川奨励賞と計画設計奨励賞は推薦がなく、計画設計賞については審査の結果、受賞該当者はなかった。

各賞の対象の種類は以下の通りである。

各賞の対象内容

石川賞

都市計画に関する業績において独創的・啓蒙的な業績をあげ、都市計画の進歩・発展に顕著な貢献をした個人または団体を対象とする。

石川奨励賞

都市計画の進歩に寄与し、将来の発展性が期待される個人または団体を対象とする。

論文賞

過去1年以内に発表された都市計画に関する学術研究論文で、一定のまとまりがあり、都市計画の進歩・発展に顕著な貢献をした会員または会員が推薦する個人を対象とする。

論文奨励賞

過去1年以内に発表された論文において、都市計画の進歩に寄与し将来の発展性が期待される会員または会員が推薦する個人を対象とする。

設計計画賞

都市計画の進歩・発展に顕著な貢献をした（完成されていなくとも現実性のあるものを含む）会員または会員が推薦する個人または団体を対象とする。

計画設計奨励賞

都市計画の進歩に寄与し、将来の発展性が期待される会員または会員が推薦する個人または団体を対象とする。

石川賞の受賞理由

受賞者	沖縄県 知事 稲嶺 恵一 那覇市 市長 翁長 雄志 沖縄県都市モノレール建設促進協議会 会長 米村 幸政
業績	沖縄都市モノレールの整備と総合的戦略的な都市整備計画

受賞理由

2002年8月に開業した沖縄都市モノレールの整備は、戦後の沖縄にとって初めての軌道系交通システムであるだけでなく、那覇市の都市構造を根本から変えるほどの影響力をもつ事業である。空港、都心部、そして観光拠点（首里城）という重要拠点を結ぶ路線であり、都市の骨格を担いうる公共交通システムとなった。

また、沿線の市街地整備事業も活発に行われている。土地区画整理事業が5箇所で開催され、新市街地や住宅団地の整備が進められており、人口5万人規模の市街地がすでに姿を表している。また、市街地再開発事業についても、県庁前駅に隣接する再開発ビルがすでに完成している。そのほか、公園事業や周辺施設との連携施設の整備なども行われている。

構想から30年以上にわたる長期間を要した事業であったが、その間に、都市モノレール整備と市街地整備を総合的かつ戦略的に進めることができた意義は大きい。

本事業は、関係者の長年にわたる多大なる努力の賜物であり、都市計画上の意義も多く、石川賞に値するものと判断する。

石川賞の受賞理由

受賞者 蓑原 敬

業績 都市計画と住宅政策の結合を目指した一連の実践と著作活動

受賞理由

「都市プランナー」蓑原敬氏は、たぶん日本でもっとも有名な「プランナー」のひとりであろう。その長年にわたる業績は、たくさんの著書の内、単著である『街づくりの変革：生活都市計画へ』(1998年6月)と『成熟のための都市再生：人口減少時代の街づくり』(2003年5月)で一覧することができる。いずれも過去の論文や講演記録を集めたもので、前者には1977年を最初とする1990年代までのものが、後者には2000年以降のものがおさめられている。著者は、この間、わが国の都市計画あるいは住宅政策の最先端を切り開く立場にあり、積極的にそのための行動を展開してきた。ふたつの著書は、ここ20数年大きく変化してきたわが国の都市計画・住宅政策の歴史を証言するものとなっている。

蓑原氏はまた、いわゆる制度・政策面だけでなく、「建築物の集合とりわけ住宅建築の集合のあり方が町の質的レベルを規定する」という立場から、ふたつの茨城県営住宅、幕張ベイタウン計画を実現し、広島基町再生計画、福岡アイランドシティ計画といったプロジェクトの提案、さらには新潟県の都市マスタープラン、都市政策ビジョンといった自治体の政策のとりまとめなど、都市づくりのプロデューサーとして傑出した業績を残してきた。

そして最近では、人口減少時代の都市計画課題をいち早くとりあげ、文明論的な視点から都市再生戦略などについて積極的な講演や著作活動を展開している。このように、蓑原氏は、時代を的確に掴み、またそのリーダーシップによって人びとを先導し、独創的・啓発的な業績をあげ、都市計画の進歩・発展に多大な貢献をしてきた。氏の業績は石川賞に値すると判断する。

論文賞の受賞理由

受賞者 久保光弘

論文題目 新長田駅北地区（東部）震災復興土地地区画整理事業における住民主導のまちづくりシステムについての研究

受賞理由

本論文は、阪神・淡路大震災復興土地地区画整理事業が実施された神戸市長田区新長田駅北地区東部でのまちづくり活動をコンサルタントとして支援してきた筆者が、「まちづくりシステム」について解明をしようとしたものであり、長田駅北地区東部での継続的な支援活動と観察に基づき、住民主体の「まちづくりシステム」の概念の整理とその体系化を試みている。

住民が関与する「まちづくり」が、都市計画の第2の柱になりつつある現在でも、「まちづくり」の概念は共有化されたものとはなっておらず、「まちづくり」による市街地整備が十分体系化されているわけではない。本論文は、「まちづくり」に関連する様々な要素について、その概念を明確化しようとするとともに、上記地域でのまちづくり活動の実践事例を通じて「まちづくり」が有効に機能し継続するための要件を整理し、都市計画制度の中での「まちづくり」の役割について有益な考察を行っている。特に、同地域は、様々な特性を持つ市街地の集合体であり、それぞれの市街地の特性に応じて「まちづくり活動」がどのように行われ、何がキーポイントとなったかの記録・筆者の見解の表明は、貴重な記録である。

筆者が指摘するように、“まちづくりのプロセスは不可逆”であり、その意思決定は時機を得たものとするのが重要である。その意味で、同地区にコンサルタントとして主体的に関与し、およそ10年に及ぶ活動に基づいて、「まちづくりプロセス」を客観的な記録とすることに努めたことは、特筆に価する。

論文は、その各部分が都市計画学会を初めとして査読つき学術論文誌に掲載されており、内容は十分信頼性に足りる。本論文はその集大成として、十分、論文賞に値すると判断する。

論文賞の受賞理由

受賞者 古山正雄

論文名 都市構造の幾何学的分析に関する一連の研究と著作

受賞理由

対象論文として5編が挙げられている。いずれも2000年から2003年にかけてかかれたもので（内2編が共著でその他は単著）、まずこれに敬意を表したい。

中でも「地域間ネットワークにおける最短結合と近隣結合に関する理論的考察（2003年都市計画論文集）」と「地域結合過程における $n \log n$ の意味について（2002年都市計画論文集）」で得られた結果と、これを都市論と結びつけて論じている点が「研究内容を技術的な狭い範囲に閉じ込めることなく、できるだけ普遍的で大きな課題に含めるように」という受賞者の意図が具現している。また参考著書として挙げられている「造形数理」は大学学部程度の数学知識があれば都市の抽象化された構造を分析するという知的関心を誘発するという点で評価できる。

以上の点から、一連の研究と著作は論文賞に値すると判断する。

論文奨励賞の受賞理由

受賞者 姥浦 道生

論文題目 ドイツにおける大規模小売店舗開発の立地コントロールに関する研究

受賞理由

本論文は、我が国でも大きな問題となっている大規模店舗立地について、ドイツでの状況をマクロからミクロまで丹念に分析している。すなわち、一般的な都市計画制度及び大規模店舗コントロール制度の枠組を、ドイツ語の一次資料を基に整理するとともに、具体例、詳細事例を取り上げて運用実態を把握し問題点を整理している。

論文の中核は3章と4章であり、前者ではドルトムント市を事例として、自治体レベルでの大型店開発の立地コントロールの実態を、個々の開発事例の調査とコントロール規定の開発手続への実際の適用に関する分析から、明らかにしている。後者では、広域レベルでの大型店開発立地コントロールの実態を、文献資料での調査と各階層の自治体に対するヒアリング調査から、明らかにしている。

これらの分析から得られた知見は、大型店コントロールの論拠と実用的手法を考える上での社会的な意義も高く、論文奨励賞に値すると判断する。

論文奨励賞の受賞理由

受賞者 坂本邦宏

論文題目 地区交通計画支援ツールとしての交通シミュレーションモデルの開発と適用に関する研究

受賞理由

本論文は、地区レベルでの交通計画（地区交通計画）における局所的な交通課題に対応すべく、市民参加形式で交通政策を策定すべき事項について評価を行う交通シミュレータを開発し、その有効性を検証しようとしたものである。

すでに、多数の交通シミュレータが開発されている中で、現行のシミュレータの地区交通計画への適用の限界を考察し、地区交通計画実施の効果を評価することが可能な新たなシミュレータを自ら構築したこと、道路上の車両の挙動をコンパートメントとパーツ化という概念によって構築し、例えば路上駐車への対応を表現することを可能としているなど、地区交通計画に必須の様々な要因を組み込んだことなど、十分評価されて良い。

サブシステムを構築するに当たって、属性の偏った少数の被験者によってパラメータが設定されているなど、サブシステムの中で使用されているモデルの信頼性については、今後、さらに検討する必要があるが、きめ細かな交通シミュレーションの適用可能性を示したものとして、十分、論文奨励賞に値すると判断する。

論文奨励賞の受賞理由

受賞者 鈴木伸治

論文題目 東京都心部における景観概念の変遷と景観施策の展開に関する研究
－東京美観地区を中心として－

受賞理由

本研究は、1911年丸の内に一丁ロンドンが出現して以来、時代の節々で世間の耳目を集め続けた皇居周辺地区を題材にして、我が国の近代都市計画において都市景観がどのように構想され、計画あるいは施策に反映されてきたかを明らかにしたものである。1919年の市街地建築物法制定時及び1950年の建築基準法制定時において、ともに「都市の景観は維持するだけでなく積極的に創造すべきものである」という思想が立法関係者の間に既に存在していたとの指摘は、特に興味深い。

地域特性を生かしたまちづくりということが言われて久しいが、建築物の規制誘導に関する行政分野では、建築物の権利制限がこの領域でどこまで可能かという課題は大きな関心事である。本研究は、この点について新たな知見を提供するとともに今後の施策の方向を示唆するものとして重要な内容を有している。景観法の制定を目前にした今日、有用な論文と考えられ、論文奨励賞に値すると判断する。

論文奨励賞の受賞理由

受賞者 高見 淳史

論文題目 商業開発のコントロールを通じた自動車利用抑制に関する研究
－買物交通行動分析をベースとして－

受賞理由

本論文は、大規模商業施設の開発コントロールも含めた自動車利用抑制（総走行台キロ削減）と中心商業地の活性化のための都市政策・交通政策を策定し、その効果を検証するために日本を含めた各国の政策を調査分析し、さらに検証のために買物行動モデルを開発して、近隣センターの育成を通じた自動車利用抑制の施策を検討したものである。

商業開発のコントロールという土地利用施策と、自動車利用が多い買物交通行動の自動車利用抑制の相互関係を分析することにより、「土地利用と交通」という都市計画の中でも非常に重要な分野の分析を行っている。またモデルは、都市圏レベルと地区レベルの2種類が提案されており、いずれも独自の調査データによって実証されている。このため、政策シナリオの効果を検証するに十分な精度をもっている。

都市再生の必要性が叫ばれている今日、有用な論文と考えられ、論文奨励賞に値すると判断する。

日本都市計画学会

功績賞・国際交流賞受賞者

(五十音順・敬称略)

功績賞受賞者

- 元 東京都技監 大崎 本一
- 元 神戸市長 笹山 幸俊
- 元 名古屋市長 西尾 武喜
- 株式会社 地域計画建築研究所
取締役会長 三輪 泰司
- 東京大学名誉教授 渡辺 定夫

国際交流賞受賞者

- 東京大学名誉教授・早稲田大学教授
伊藤 滋
- 元カリフォルニア大学バークレー校教授・
カリフォルニア大学環境デザイン学部名誉学長
リチャード・ベンダー

2004年 日本都市計画学会

功績賞・国際交流賞 選考経過

2004年日本都市計画学会功績賞・国際交流賞は、理事会のもとに設置された功績賞・国際交流賞選考委員会が、理事・評議員から候補者の推薦を受け、その中から選考委員会で慎重に検討した結果、功績賞5名、国際交流賞2名を選考し、理事会に推挙した。なお、国際交流賞の授与は、年内に別途機会をみて表彰するものとする。

なお、各賞の対象の種類は以下の通りである。

各賞の対象内容

功績賞

長年にわたって日本都市計画学会の発展、ならびに都市計画学の進歩、発展に寄与してきた者で、その貢献が、社会的、学問的に見て顕著な者を対象とする。

国際交流賞

長年にわたって日本都市計画学会の発展、ならびに都市計画の国際的交流などに貢献した者（外国人・日本人）を対象とする。

2004年 功績賞・国際交流賞

功績賞受賞理由

○大崎 本一（71） 元 東京都技監

大崎本一氏は、1958年に東京都に奉職以来、東京の都市計画行政に中心的な役割を果たし、都市計画局長、建設局長、並びに初代・東京都技監を歴任するなど、東京の都市計画行政を、永きにわたり牽引した。

とりわけ、今日の東京の旺盛な都市活動を支える地下鉄や首都高速道路など都市基盤の計画をはじめ、バブル期の地価対策や臨海副都心の計画策定など、激動期の難しい舵取りに多大な功績を残した。

一方で多忙な業務の傍ら、東京大学工学部、東京工業大学工学部、東京都立科学技術大学において講師を務め、豊富な実務経験に即した都市計画の講義を行うとともに、「東京の都市計画」（鹿島出版会）を著すなど、後進への教育や社会への普及啓発に、熱意を持って尽力した。

これらの卓越した功績により、日本都市計画学会・功績賞を授与する。

○笹山 幸俊（79） 元 神戸市長

笹山幸俊氏は、昭和21年に、戦後復興に取りかかったばかりの神戸市に奉職。以来、半世紀以上にわたって都市基盤の計画、整備の推進に尽力し、大震災からのめざましい復興を成し遂げるまで、都市計画のエキスパートとして、神戸の都市づくりに多大な貢献をした。

昭和53年に都市計画局長であった氏は、新たな都市景観形成の先導役を果たす「神戸市都市景観条例」を制定。景観に配慮した都市全体のまちづくりの取組みは、旧居留地や北の異人館街の街並みづくりに生かされ高い評価を受けた。昭和56年には助役に就任し、協働のまちづくりの進め方を総合的に示した「まちづくり条例」を全国に先駆けて制定。「協議会方式によるまちづくり」は全国各都市から注目された。同年には、海上文化都市ポートアイランドの完成にあわせて、わが国初の新交通システムである「ポートアイランド線」を開通させた。

平成元年には市長に就任し、多核ネットワーク都市の形成とコンパクトタウンの実現をめざして、「アーバンリゾート都市づくり」に邁進した。平成4年には、旧国鉄湊川貨物駅を中心とする既成市街地の大規模再開発である「神戸ハーバーランド」の整備を完成させ、インナーシティの再生を図るとともに、ウォーターフロントを生かしたまちづくりのモデルとして、「海につながる文化都市の創造」を推進した。

さらに、平成7年には未曾有の大震災に直面。21世紀の都市の将来を見据えた「神戸市復興計画」を策定して陣頭指揮を取り、早期復興と安全で安心のまちづくりに尽力した。

以上の功績により、功績賞を授与する。

○西尾 武喜 (79) 元 名古屋市長

西尾武喜氏は、昭和 24 年京都大学工学部土木工学科を卒業されてから今日まで、55 年間にわたり名古屋市の都市づくりにまい進してこられた。はじめは、水道局に勤務され 10 年間水道局長として名古屋の上水道の向上につくされた。その後、助役を経て、昭和 60 年名古屋市長に就任された。その間、戦後 40 年の都市計画の懸案となっていた金山総合駅を実現されたほか、「デザイン都市」や「都市景観整備」「地区総合整備」「都市計画史の編纂」などを推進し、都市計画に明るい市長として名古屋市の発展につくされた。

とりわけ平成 3 年には、戦災復興事業の収束を記念した (財) 名古屋都市センターを設立され、設立と同時に理事長に就任、平成 9 年市長退任後は専任の理事長としてセンターを指導されている。同センターは都市計画を中心テーマにしたシンクタンクとして全国でもユニークな存在であり、今日では名古屋の都市づくりに欠かせない団体に成長している。また、同センターは戦災復興記念館として金山南ビル 11~14 階に位置しており、眼下にその成果である街づくりを俯瞰できる公開展示フロアも備えており、市民の都市計画博物館となっている。なお、同センターは平成 3 年本学会の中部支部設立以来、その事務局を担っており、中部支部の活動の拠点として本学会に大きく貢献をしている。

西尾武喜氏は、「都市計画の名古屋」の実現にいかんなく力を発揮され、中部地域の都市計画の進展のみならず、本学会中部支部の発展にも大きな役割を果たされたので、功績賞を授与する。

○三輪 泰司 (73) 株式会社 地域計画建築研究所 取締役会長

三輪泰司氏は、都市計画コンサルタント・建設コンサルタントとして京都を中心に地域や国土づくり、さまざまな施設の建設に関わる業務を基礎に活動されている。その活動は生活空間の創造を対象に政策提言から計画立案、設計デザインの現場、市民参加のワークショップや事業コーディネートなど多岐にわたっている。

関西学研都市構想の推進に関連しては、1977 年の着手段階から関わり、現在まで関西文化学術研究都市の推進に広く関わってきた功績は関西の都市計画における非常に大きな功績と考える。

京都市、奈良市等の風致・景観政策にも組織的に関与し、1988 年 JR 京都駅の改築にあたっては、国際的コンペのプロフェッショナルアドバイザーを勤めるなど、幅広く歴史的景観の保全と創造活動に関わってきた。更に京都経済同友会の活動を通じ「京都副都心構想」を企業家の立場から提言するなど京都市の都市計画・都市政策に大きな功績がある。

都市計画学会関西支部の創設期に尽力され、学会の活動にも広く貢献してきている。

上記の理由により、功績賞を授与する。

○渡辺 定夫（72） 東京大学名誉教授

渡辺定夫氏は 1956 年に東京大学工学部建築学科を卒業、62 年に同大学院数物系研究科博士課程を単位取得退学し、(株) 都市建築設計研究所に入社、64 年に東京大学工学部助手に採用され、67 年に同講師、68 年より 73 年にかけて (株) 都市建築設計研究所及び (財) 建設工学研究会にて建築・都市設計業務に従事したのち、73 年に東京大学工学部講師、75 年に同助教授、84 年に同教授に就任、都市工学科都市計画第二講座を担当された。93 年に東京大学を定年退官、同年工学院大学工学部教授に就任し、2003 年に同大を退職している。

この間、1984 年に工学博士（東京大学）を授与された。また、85 年に「都市における大学立地整備に関する研究」で日本都市計画学会論文賞を、88 年に「アーバンデザイン手法による川崎駅東口周辺の都市活性化事業」により日本都市計画学会設計賞を受賞、さらに同 88 年には「都市と大学に関する一連の研究」によって日本建築学会賞（論文）を受賞している。

また、東京大学助手の時期を中心に丹下研究室の主力メンバーとして東京計画 1960、スコピエ計画、ボローニア計画などにおいて中心的な役割を果たした。

のちに全国各地の都市デザインプロジェクトの中心的なリーダーとして、幕張ベイタウンの都市デザインを統括する事業計画調整委員として主導的な役割を果たしたのをはじめとして、長野オリンピックの選手村である今井ニュータウンの設計者選定の責任者や九州大学新キャンパス計画の公募型プロポーザルの事業者選定委員会委員長を務めるなどの任に当たり、わが国の都市デザインの水準向上におおきく寄与した。

さらに海外においてもアジアの都市計画系大学の連合組織である Asian Planning Schools Association, APSA の設立を主導し、その初代会長(1993～1999)に就任している。現在も同組織の名誉会長である。また、IFHP の学生コンペの審査員も務めるなど、アジアの都市デザイン分野の代表として活躍している。

以上、渡辺定夫氏の業績は、わが国の都市デザインの水準向上に大きな功績を残している。よって、功績賞を授与する。

国際交流賞受賞理由

○伊藤 滋 (72) 東京大学名誉教授・早稲田大学教授

伊藤滋氏は、1931年生まれで、東京大学農学部林学科、工学部建築学科を卒業され、大学院工学系研究科建築学博士課程を修了された。その後、同大学工学部都市工学科教授、慶應義塾大学環境情報学部教授、などを務めた後、現職の早稲田大学教授とされている。また東京大学は名誉教授とされている。

この間、一貫して都市計画分野の国際化にご尽力され、1986年から91年まで国際委員長を務められた。在任中には近代都市計画法制100周年記念事業による国際シンポジウムの開催に尽力され、その後の国際委員会の発展の基礎を造られた功績は多くの会員が認めるところである。

さらに、1980年代末から伊藤氏が主導され開催された日米アーバンワークショップでは、氏がカリフォルニア大学バークレー校のリチャード・ベンダー氏を招聘され、それ以来伊藤、ベンダー両氏が日米の都市計画専門家の架け橋となり、日米間の交流が活発化したことは特筆に値する。

よって、ここに国際交流賞を授与する。

○リチャード・ベンダー 元カリフォルニア大学バークレー校教授・ カリフォルニア大学環境デザイン学部名誉学長

氏は元米国カリフォルニア大学バークレー校の都市計画分野の教授であり、米国都市計画分野での重鎮である。現在もバークレー校の環境デザイン学部の名誉学部長を務めており、現在でも建築・都市計画の専門家として幅広く活躍している。氏の活動範囲は米国内にとどまらず、欧州、アジアなどに及び、氏の教え子も日本で多数活躍している。また、伊藤滋氏とは大学院時代からの旧知の仲である。

このような経歴から、氏のわが国の都市計画専門家との交流は長きにわたって続いており、1988～89年に行われた伊藤滋氏主催の日米アーバン・ワークショップに始まり、さまざまな専門会議での講演やコンペの審査員、東大GC-5特別講座の客員教授、民間都市開発や自治体の都市計画アドバイザーなど、わが国の都市計画分野で数え切れない貢献をされている。氏は人間関係を非常に大切にされ、来日するたびに知人・友人を集めて旧交を温めている。

欧米から受賞第一号として最もふさわしい方であり、国際交流賞によりその功績を称えたい。